入選童話　一等

十五夜のお山

倉田せつみ

黄色いきれいなお月さまは、夜になるとお山のかげから大きなお顔を出して、一晩中てらして歩きます。

昨夜も一昨日（をとつひ）の晩もその前の晩もその又前の晩も――もう一週間ばかりといふもの毎晩歩きつゞけましたので、お月さまはとう〳〵疲れて了ひました。

「あゝ〳〵、ずゐ分歩きつゞけたのでくたびれた。二三日ゆつくり休むとしよう。」

さう云つてお月さまはお山のかげに横になつたきり今夜からは顔をみせません。

お月さまが出ると必ずお山の兎さんは踊りををどり、お山の狸さんはポンポコポンと腹つづみをたゝいて一晩中遊び明します。

昨夜も、一昨日の晩も、その前の晩も、その又前の晩も――もう一週間ばかりこいふもの毎晩兎は踊りつゞけ、狸は太鼓を打ち續けましたので、兎も狸も、こう〳〵つかれて了ひました。

兎さんは

「あゝく、ずゐ分踊りつゞけたのでくたびれた。今夜はお月さまも出ないやうだからゆつくり休むこしよう。」

こいつてお山のすゝきの蔭に眠つて了ひました。狸さんも

「あゝく、ずゐ分腹太鼓を打ちつゞけたのでくたびれた。今夜はお月さまも出ないやうだからゆつくり休むこしよう」

こいつてお山の穴の中に眠つて了ひました。

その晩はお月さまが出ないから眞暗でした。

それに兎さんも踊りををごらないし、狸の腹つづみもきこえない淋しい晩でした。只いろいろの蟲達ばかりが歌を唄つてゐました。

次の晩になりました。けれどまだお月さまは目をさましません。よつぽど疲れたのでせう。兎も狸もまだ眠つてゐます。昨夜と同じやうに暗い淋しい晩でした。

その又次の晩がまゐりました。お月さまも兎も狸もまだ眠をさましません。やつぱりさびしい暗い夜でした。

まつくらな淋しい晩が三日ばかり續きました。

四日目の夕方のことです。兎はひよつと目をさましました。誰かゞ呼んでゐるのです。

「おや！だあれ？　私を呼んでゐるのはだあれ？」

「兎さん私ですよ。鈴蟲ですよ」

「あら鈴蟲さんだつたの？　今晩は」と起き上つて兎さんは鈴蟲におじぎをしました。

「兎さん、よく眠りましたね。三日ばかりこいふもの毎晩まつくらで、兎さんの踊りもみられなかつたし、狸さんの太鼓もきかれなかつたし、それに私なんぞ大事な鈴を落してしまつてもお月さまが出ていらつしやらないから、暗くてさがすことも出來ないんですよ」

と眼に涙までためてあはれつぽい聲でいひました。

「オヤ、それは困りましたね。お月さまもまだ眠つていらつしやるんだね」

「エヽ、おとなりのスキツチヨさんもヴァイオリンの糸が切れたから町に買ひにいかうと出かけたんでしたが暗くて道がわからなかつたために、石につまづいて足を折つて了ひましたよ」

兎さんはすつかりびつくりして、

「まあ、それは可愛いさうなことをしましたね。その足はもうなほらないですか？」

「いゝえ、すゝきの葉でなでながらお月さまの光にあてるとすぐなほるんです」

「さうですか、それぢやお月さまに今夜はどうしても出ていたゞかなけりやなりませんね。狸さんと相談してみませう。」

さう云つて兎さんはピョン〳〵はねて狸さんの穴にやつて來ました。

「今晩は狸さん、兎ですよ。起きて頂戴」　トン〳〵〳〵と戸を叩きましたので、狸も眼をこすり乍ら起きて來ました。

「兎さんかい。おや何か出來たの？　そんなにいきを切つてかけて來たわけは？」

「あのね、狸さん大變なのよ」

こいつてさつき鈴蟲のはなしたことを狸に話してきかせました。

「ね、狸さん。だからひとつうんと高く腹つゝみを打つて頂戴よ」

狸もびつくりして

「さうかい。では早速太鼓をたゝきませう」

と穴から出て來ました。

狸はお山の高い處へ上つて上つて力一杯お腹の太鼓を叩き初めました。

ポンポコ〳〵

ポンポコポン

ポポンコ　ポンポン

ポコポンポン

狸の太鼓の音は、谷を越え、すゝきの野原を渡つて、お山のかげの方までひゞいてゆきました。お山のかげで眠つてゐたお月さまは、ひよつと目をさましました。さうしますとボンボコボンといふにぎやかな太鼓の音がきこえるでせう！

「おや！　狸が太鼓を叩いてゐるぞ。わしが顔を出さなけりや兎も踊るはずはないし、狸も腹つづみを打つはずがないんだがなあ。をかしいぞ。ぢれひとつのぞいてみよう」

さういつてお月さまはお山のかげからちよつぴりお顔を出してみました。お月さまがお顔を出したから今まで暗かつたお山はパァーッと明るくなりました。兎はよろこんでます〳〵面白く踊り出しました。狸の太鼓にあはせて、きれいないゝ聲で歌を唄ひながら。

十三七ッのお月さま
いつまでおねんね
してなさる。

兎の踊りを

見やしやんせ。

蟲の音樂

いかゞです

くずの葉お餅は

いかゞです。

お月さまもよろこんで、ニコ〳〵笑ひながらまんまるい大きなお顔をすつかり出して了ひました。しばらくぶりで、お山は明るくにぎやかになりました。

鈴蟲さんはおこした鈴をみつけました。

スキッチョさんも足がなほつてヴァイオリンの糸を買ひに町へ出かけました。

もはやお山ではにぎやかな音樂會が初まるこゝでせうよ。

丁度十五夜の晩でした。

——(おしまひ)——